

3147
3

浅間嶽面敷草紙後帳



逢州執着譚

琴卷上

種彦著



廿五

巴く吸菊か洞の山荘に抱君以集會
細太丸に命く猿樂俳伎と真行る事

却説浅間巴く頭良治の時多を非命の死と少てより。悲歎やうさる。供
供粮一経と誦し。追善丁寧にいとる。さうくやとるに旧年もさる。あ
すり。又来る真とむいさる。嗚呼さるもの。日に疎しとつと。春悲愛執尚
忘れどやありらん。せりし其人の面影に肖つる紙祝も。公やりにせんと。折に
ふは逢州がもと訪りたれば五郎捲信すに。巴く頭が後辺に副て道次
と守護杜鶴花の門首にむいさる。主従の礼儀とまぶさる。丹公とつじ

九 卷之三

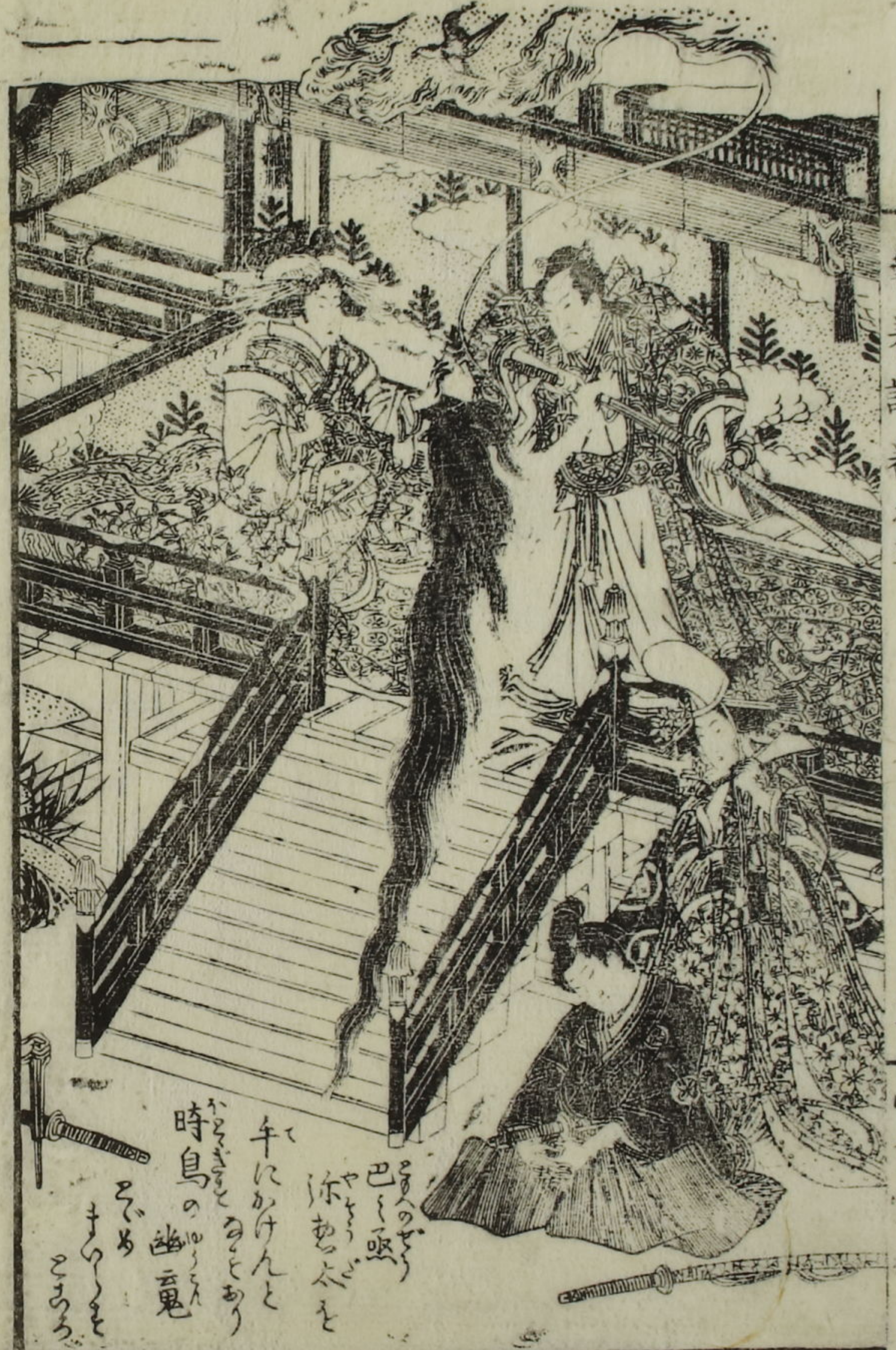
山青堂藏

仕ぐら。柳巴（そのまゝのまゝ）と逢州（あうしゅう）がゆく通ひ（とほひ）の色（いろ）とちりんと傾（けい）四（し）とあふにのりど唯（ただ）
 亡（な）人の慕（こ）い。あひひねつ。忍草（しのぐさ）をよみて生（な）ることもあらん。公（こう）慰（い）種（しゅ）。
 花（はな）の今（いま）あつて色（いろ）増（ま）す。思（おも）ふを始（はじ）めつ。逢州（あうしゅう）も又（また）あつて妹（い）の色（いろ）とねら
 公（こう）のめいやくにけ君（きみ）のよめまのせ仇（あひ）人の往（や）方（かた）と擇（えら）宿（しゆく）意（い）ととげんとあ
 ぶ。どりあつても諸（しよ）ひが女の心（こころ）最（さい）はくしてつう巴（は）と忠（ちゆう）がまゝにゆくもあひ
 と。誰（たれ）もあつてん（えん）の客（きやく）の食（しやく）のうらに借（か）老（らう）のちるひあつてんからしるまひ
 せもつ。逢州（あうしゅう）の他（た）の客（きやく）もじく巴（は）と忠（ちゆう）も彼（かれ）が玉（たま）臂（うで）にまはれ眠（ね）らむ。あつんと
 とれば奴（やつ）梅（うめ）あはるい袖（そで）とまらに憂（うれ）やんとそれば折（お）柳（りゆう）風（かぜ）にすねひて
 の歩（あ）むことごとくいも。あつての且（かつ）吉（きち）の夕（ゆふ）のいとひさく。通（とほ）ひつても田（でん）宗（しゆう）茶（ちや）が長（なが）乃（の）
 巢（さう）ちとあひが。や何（なに）是（これ）にのりど。俄（いつ）に大（だい）工（こう）とあつて。下（か）河（が）京（きやう）雲（うん）居（き）寺（じ）の思（おも）ひ
 菊（きく）洞（どう）といふ死（し）は山（さん）莊（しやう）とつくらせられまのへ烟草（たばこ）にづもれ。周（しゆう）寂（じやく）幽（ゆう）樓（ろう）がま

地（ち）のくわい玉（ぎよく）樓（ろう）金（きん）臺（たい）連（れん）延（えん）と建（た）つま蓬（ほう）がなりの表（ひら）の声（こゑ）の音（ね）色（いろ）にのり
 松（しょう）吹（ふ）せむ玉（たま）の小（せう）琴（ぎん）とあつて七十二（しちじふに）間の渡（わたり）殿（でん）三十二（さんじふに）間の泊（とど）殿（でん）やま
 花（はな）桐（どう）院（いん）木（ぼく）奇（き）南（なん）のくまひとあつてつらほ。笑（わら）と買（か）本（ほん）のりくは錦（きん）繡（しゆう）の戸（かど）帳（ちやう）
 とひま。眉（まゆ）とあつて密（みつ）のまら水晶（すいしゆう）の簾（せん）とあつて。屏（びやう）帳（ちやう）の寄（よ）兼（けん）とあつては
 のくまひ。珍（ちん）宙（しゆう）のむらり畫（え）にうつとあつて。園（その）の谷（や）川（がわ）とひまはれ。こ
 廣（ひろ）らるる地（ち）とあつて。頃（ころ）も秋（あき）のまら紅葉（こう）の楓（かへ）樹（じゆ）とあつて。天（てん）地（ち）
 へ蜀（しやく）紅（かう）もくもあつて。四（し）方（ほう）の橋（はし）もあつて。谷（や）の橋（はし）梁（りやう）水（すい）を
 いる光（さま）景（けい）。さうに人間（にんげん）の界（がい）もあつて。正（ただ）は是（これ）九天（くわんてん）の畫（え）堂（だう）とあつて。つ
 ごとく巴（は）と忠（ちゆう）の目（め）毎（まい）日（にち）山（さん）莊（しやう）にのり。五（ご）條（じやう）坂（ばん）より逢州（あうしゅう）とあつて。朝（あ）笑（わら）暮（くれ）歡（かん）
 居（い）るに起（た）つてあつて。一日（いちにち）巴（は）と忠（ちゆう）が我（われ）の美（み）人（びん）とあつて。花（はな）乃（の）姿（すがた）
 の終（しゆう）日（にち）よそれとあつて。枕（まくら）上の密（みつ）語（ご）の夜（よ）もあつて。結（むす）ばつとあつて。彼（かれ）唐（たう）の玄（げん）宗（しゆう）



幸著詩卷六十三
 四
 一
 可
 成



巴の歌
 你恋ふと
 午にけんと
 時鳥の幽鬼
 ときめ
 まつり
 こまろ

幸著詩卷六十三
 三

保養のよし。本國近江のりるに主君良治。下河原に山莊をうす入口酒
 宴遊樂のよし。わうりくを糸のうに。公のうに。おのうあ。急ぎ皇
 都のり。六日山莊にま。かる光景と潛にう。ひま。丈におろま。
 ち面に面前へ。諫といれん。かひ。不。まが俳伎す。のち。あ
 まづく。異見のお。む。ま。次。の。回。に。ひ。久。居。日。暮。く。後。通。ひ
 の女原にひつせ。小織助とま。ま。小織助。何。何。ま。何。何。に。は。丸。へ。来。ま。せ。し。ぞ。と。
 眼。ま。父。あ。う。と。見。る。う。う。と。お。お。と。ろ。う。れ。ま。何。何。に。は。丸。へ。来。ま。せ。し。ぞ。と。
 つ。ひ。も。す。て。う。る。に。そ。う。と。腕。へ。ち。と。れ。の。側。に。冊。を。ま。が。う。君。か。ま。で。放。任。無。慙
 に。せ。ま。の。と。暗。然。と。ち。が。り。う。せ。し。不。忠。者。ぞ。く。は。席。を。退。出。し。と。声
 う。う。と。て。罵。り。し。れ。ば。小。織。助。お。ろ。く。い。ひ。う。ら。父。君。の。怒。で。め。め。と。し。と。理
 ら。れ。れ。ど。老。臣。の。赤。と。う。う。と。ち。ひ。ま。ら。う。る。良。治。公。若。年。の。甘。果。が。ヤ。糸。つ。て

すれも入べき。さるや。い。ま。そ。お。あ。ぬ。て。い。い。か。人。ど。も。君。命。黙。止。が。く。お。れ。の
 宴。も。ま。つ。つ。う。り。ね。と。う。ひ。き。れ。ば。亦。お。太。り。く。怒。り。数。度。諫。言。を。こ。せ。ま。り。
 き。れ。ぬ。ぬ。其。期。へ。や。ど。際。く。切。腹。な。わ。ら。う。る。も。や。う。り。の。と。と。ひ。め。ま。り。め
 ざる。は。み。く。の。な。り。に。一。定。天。魔。の。い。れ。り。や。め。い。我。面。前。ま。く。自。害。を
 ぞ。げ。君。を。諫。言。を。ま。つ。つ。る。其。刃。の。罪。を。贖。ふ。と。老。の。言。を。焦。燥。か。め。い。声
 ち。太。子。に。や。り。た。れ。の。良。治。も。あ。と。洩。せ。ま。い。か。く。は。お。太。を。る。は。れ。ら。め。く。て
 不。愁。太。の。さ。し。に。お。や。く。思。は。れ。や。く。良。治。が。ま。へ。に。張。ま。さ。う。と。い。ひ。く。ハ。君
 ち。字。窓。に。つ。ら。ま。の。ち。せ。れ。繩。錘。の。つ。ら。め。か。て。り。あ。ら。う。と。自。然。と。は。を。養。滞
 一。四。葉。が。ち。み。く。と。ま。ご。の。ひ。し。う。さ。り。あ。り。ふ。れ。て。の。歌。舞。音。樂。の。内。就
 ひ。の。あ。り。ま。や。り。ま。て。め。の。ひ。く。と。新。花。鳥。風。月。の。中。宴。に。て。判。數。多。の。妓
 女。と。め。つ。ら。れ。い。の。ん。ど。大。内。の。ま。ま。め。も。よ。し。う。う。遠。く。平。清。盛。白。拍。子。を

丸音障卷之三

五 山 青 堂 藏

愛好^{あひかう}。ちくへ高時法師田樂と賞^{あやむら}するの類^{るい}悉^{しつ}不吉^{ふきち}の祥^{さむか}あり。そや此公^{このこう}を
 誦^{よみ}にまつるを多くと憚^{おそ}る気色^{けしき}もやくやがる。良治^{りょうぢ}何^{なに}もいふ人^{ひと}一言^{ひとこと}のいふ
 るさぞ。やがね太^たの小織^{のこおり}も助^{すけ}とらひ出^い。今^{いま}まで諫^{いさな}やする罪^{つと}をせめ
 こそ。やに切腹^{せきふく}もせむといひくるが。良治^{りょうぢ}も燗^{せん}酔^よのへるれば。大^{おほ}に気色^{けしき}と損^{そん}
 ば。このれ^{このれ}亦^{また}太^た一^{ひと}枚^{まい}考^{かう}する者の癖^{くせ}とらひ一言^{ひとこと}のいふを文^{ぶん}も。うちもて
 おげばよきとて。おひ。ふ。女^めが子^こにせせ。我^{われ}血^ち臣^{しん}として。右^{みぎ}は。小織^{のこおり}も。此^{こゝ}に。私^{わたくし}も
 切腹^{せきふく}も。つ。け。糸^{いと}我^{われ}に對^{たい}して。是^{これ}も。よ。どの。所^{ところ}業^{わざ}。皆^{みな}怪^{あや}む。老^{おい}を。れ。が。い。ふ。其^{その}
 頃^{とき}き。り。う。け。怒^{いかり}と。や。と。む。べ。と。と。散^{ちり}白^{しろ}双^{たふ}拔^{はき}が。を。や。が。亦^{また}太^たと。こ。も。力^{ちから}を
 惜^{おし}む。裾^{すそ}を。の。けて。玉^{たま}殿^{てん}を。歩^{あゆ}。例^{たと}邦^{はう}原^{げん}の。や。り。の。所^{ところ}。い。ふ。は。く。首^{くび}を。刻^うへ。と
 合^あ掌^{てい}や。う。と。に。小織^{のこおり}も。助^{すけ}大^{おほ}に。お。ら。り。手^て。届^{いた}。怒^{いかり}と。ひ。ま。て。か。せ。原^{はら}小^こ子^こが
 め。や。ま。る。れ。が。我^{われ}と。こ。そ。の。手^てに。く。け。ま。く。と。走^{はし}る。或^{ある}亦^{また}太^た撲^{たた}地^ぢと。つ。き。退^{ひき}

郷^こに。も。入^いる。と。く。此^{こゝ}側^{そば}に。冊^{さく}ま。な。が。う。安^{やす}閑^{かん}と。こ。の。り。居^いる。不^ふどの。曲^{まが}者^{もの}。君^{きみ}の。牛^{うし}
 にかげらる。此^{こゝ}佩^いの。け。れ。ら。う。我^{われ}と。こ。そ。の。手^てに。か。け。ま。ら。れ。吾^{われ}我^{われ}と。こ。そ。我^{われ}と。こ。そ
 と。父^{ちち}子^こ死^しと。め。ら。そ。赤^{あか}心^{こゝろ}と。逢^あ州^{しゅう}も。入^いる。に。志^{こゝろ}の。ひ。ど。衆^{しゅう}屋^やより。立^た出^でる。此^{こゝ}短^{たん}太^た
 にか。と。は。年^{とし}の。む。い。る。ま。り。ま。り。と。文^{ぶん}も。や。も。い。ま。ま。ど。の。ら。や。亦^{また}太^たが。首^{くび}ハ
 か。ち。ぬ。ぐ。く。入^いへ。と。り。怪^{あや}む。べ。風^{かぜ}烈^{れつ}く。お。と。き。ま。り。燈^と火^ひ風^{かぜ}と。も。あ。る。と
 ひ。こ。く。と。と。と。と。繪^え障^{じょう}子^しの。ひ。く。音^ねと。曾^{そう}く。入^いへ。と。り。唯^{ただ}時^{とき}多^た一^{ひと}声^{こゑ}。
 良^{りやう}治^ぢの。頭^{かぶ}の。う。に。鳴^なつ。る。う。良^{りやう}治^ぢの。酒^{さけ}氣^き忽^{たち}地^ぢよ。さ。あ。く。雨^{あめ}り。こ。の。悉^{しつ}愛^{あい}乃^の
 とも。の。る。候^{きり}ま。ぬ。と。ま。づ。白^{しろ}刃^{やいば}と。お。さ。め。た。れ。ば。亦^{また}太^た小^こ織^{おり}之^の助^{すけ}も。文^{ぶん}も。悦^{よろこ}ひ
 道理^{道理}と。つ。く。と。諫^{いさな}言^{げん}以^{もつ}て。入^いる。ば。良^{りやう}治^ぢも。漸^{しだ}く。公^{こう}と。め。ら。う。と。あ。拵^{たもと}君^{きみ}の。あり
 ち。く。此^{こゝ}餘^{あま}坂^{さか}の。長^{なが}の。の。と。に。く。へ。し。雪^{ゆき}枝^{えだ}父^{ちち}子^こと。め。ら。う。其^{その}夜^よ籠^{かご}に。か。つ。り。の。ひ。ま。
 嚮^{むか}へ。燈^と火^ひの。ま。ま。つ。る。あ。り。時^{とき}多^たの。り。姿^{すがた}も。く。鈴^{すず}子^こと。ひ。ま。つ。り。で。ま。り。

良治が佩刀と拔りちりよにまどりまきり。逢州が眼をらんへこのかやん。
 こそく良治館にちりかへりりりりり。瞿麦の方狂死とそりり。時が非
 余の死も。瞿麦の方の所者ちりりり。注進ひまじりりりり。巴と
 も公さうにわさちちりりり。時時むむまの瞿麦のわれむむまの時を
 回嘆息せしが。又心をひるが。否さききんも業残るも業順逆二門忘
 くのりりりり。喜怒哀悪の情のうむのひりりり。初とま。不
 のひりりり。涙にもむまの目れりり。伴々蘭菊の二女りりり。ひのちりり
 とま。縁髪反鼻と化と。昔給も力のうに。今不知火の條條
 刈荒に道公と後願せ。人の心と斯こそめりり。不便の
 こそく一向に後悔し。呀。時近臣のいりりり。嬉酒に耽り。
 いのりりり。愈取の蒼いれりり。後の舌にめりり。止かん。

一人あちあちとま。五毒にま。小織の助に命。逢州がりりり。後
 りりり。花侍にちりり。只一室にちりり。忘れんとりり。りりり。
 慶扱の窓に曉の毒。試とりり。柱まりり。衣の香の葉にりり。りりり。列
 のまのむりり。櫛とりり。杖の露のぬりり。仏のりりり。りりり。追ふ
 りり。他変りりり。是れりり。是れりり。又呈敷土右。往年隱形の術を
 りり。良治の兵士の困とりり。難るりり。原と交退りり。周く
 中廻と偏歴。我にひりり。悪根とりり。つめ。ちりり。びりり。の好討と
 りり。救まの金浪を掠りり。幸にりり。天刑のりり。頃日洛
 一糸のりり。存る。一日蟹塚素兵五元生太九六と。放佚無慙の愚者
 とま。清水寺のちりり。徘徊せりり。時に二月下旬日。りり。りりり。
 空のけりり。喜とりり。ちりり。貴賤老若のりり。ちりり。袖に

つね袂をまへちのふくくは往來うちひとまは目ざし嬋娟なる婦人
のりまれば別人ののくむ。五條坂の杜君杜能花なり。宿願のてあやく
哥の中山清閑寺の観音に詣り清水越く。くまなくも土右衛門の行あり
くろ夫とよこさくひかまつる。往とまんとあきくは土右衛門のてあやくと杜能花
かろと紙まりかにはまひひみみんとなりあり。素兵五つおごる弱と接の枝
はうらあてんぐと授るが杜能花の連し女童の花弁又あふり。鐘と音し
あちくれの女童あつくちとらま。無正妻とあふり。袖うらあふを杜能花を
さるひそとく微笑麻の拾はせく。素兵五にあつ。土右衛門のやりとを努
あふも。袷かいたくかつら。時に土右衛門の酒房にうら上望めぐ
居く。二人に對す。ひくわの和主等ハ近曾の相識ければ詳のてあふはし。
今樹上より入つる。杜君とあふも女ハ我古主。浅間巴と悪良口の母。遠山

尾の侍女あり。我浅間の家臣より。昔不斗彼に懇慮し。さきぐに口説か。あ
うけひまぬのそ。傾崎角途といふ倉徒に密通かせし。我無念なり。さき
彼等が不義と足めら。待首も別んむりのともひのり。如はこのて
あり。我も國を追放されしが。時時何等由縁ぞや。今においく煩悩乃
まづる箇ぐ。いかなる計策をなごうて。彼をよしのとんまご。うち
ひそとく。いふ。二人の声とひとく。志く。その最公を。し。なごか。さ。りのて。こ
かを。あ。ふ。元。浅。間。家。の。侍。女。なり。その。昔。客。に。あ。つ。る。が。な。ら。り。な。れ。ど。我
は。れ。の。女。の。く。志。れ。り。の。れ。こ。そ。五。條。坂。の。亡。八。田。宗。草。が。長。の。杜。君。あ。は。せ
む。彼。花。と。あ。つ。る。何。の。か。ま。ご。あ。つ。る。あ。つ。る。と。不。こ。う。う。に。い。ふ。と。土。右。衛。門。の。て。あ。やく
と。あ。ち。笑。ひ。和。ま。す。ホ。さ。あ。ふ。を。理。る。れ。ど。い。ま。も。未。通。女。の。あ。ら。う。り。て。顔。に
似。あ。わ。く。公。強。に。い。く。義。氣。を。さ。く。男。子。に。な。ら。ず。尋。常。の。女。と。あ。り。ひ

其人なり。夕暮。悪。さ。ら。う。さ。に。袖。お。ど。り。く。か。や。あ。る。む。土。ち。う。が。ね。く。
 つひ。々。々。往。年。袖。の。こ。り。の。花。見。う。く。此。方。と。角。汝。の。密。通。を。ん。あ。る。は。せ。
 其。時。は。さ。ぞ。無。念。と。も。ち。り。ひ。う。ん。が。う。く。理。紙。舟。の。人。角。汝。へ。其。席。ま。く。
 切。腹。な。は。し。め。此。方。の。女。の。工。を。ま。か。切。命。を。ま。ら。ひ。我。か。り。ひ。を。た。う。さ。ん。と。て。
 る。せ。い。な。れ。ば。是。悉。此。方。を。慕。ふ。公。の。実。より。出。さ。る。に。く。強。目。れ。を。悪。く。め。よ。
 由。縁。さ。る。と。う。此。方。近。く。う。う。ん。と。な。す。と。を。杜。能。花。の。ま。や。も。退。き。く。傍。に。
 う。せ。お。つ。け。も。眼。を。行。に。さ。し。い。れ。く。又。一。言。の。答。も。な。し。と。ど。土。ち。う。が。ね。に。
 声。を。ひ。う。し。這。奴。竹。の。容。止。の。り。く。は。亦。ま。さ。ら。う。と。嘲。の。ふ。も。と。く。公。は。う。
 傍。と。の。竹。等。縁。に。や。此。方。の。と。少。時。も。目。を。さ。め。る。く。再。度。環。令。あり。て。
 か。あ。と。公。の。形。ひ。遂。ま。う。う。ひ。は。頃。分。の。中。山。より。清。あ。越。く。あ。の。れ。ま。ど。も。
 此。方。に。往。の。ひ。は。花。街。の。杜。君。と。な。ら。う。は。サ。と。ひ。う。く。人。の。排。も。あ。り。ま。む。

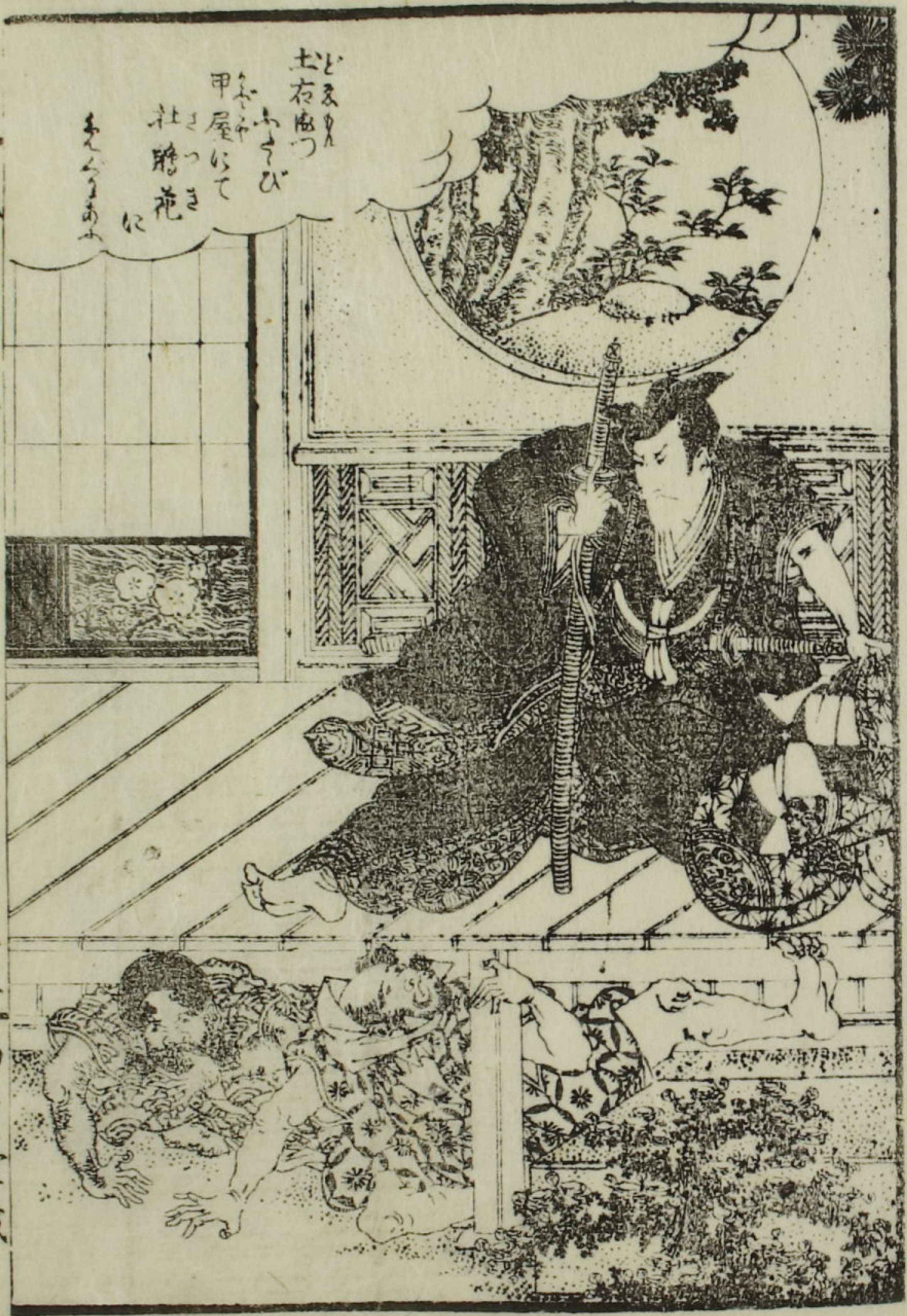
ま。よ。く。来。入。袖。の。か。し。の。ち。り。せ。る。ま。ま。さ。え。ぞ。り。情。を。き。や。ま。け。は。も。か。ぐ。ら。い。
 か。け。く。の。ひ。ぬ。と。う。ち。つ。け。に。は。後。ろ。ん。が。ま。い。う。う。と。う。言。と。ん。と。復。更。奇。景。に。
 う。う。え。来。土。ち。う。の。奸。曲。邪。智。の。曲。者。や。れ。ば。強。く。辱。を。あ。う。さ。る。と。ま。な。れ。
 の。う。う。夫。も。う。く。う。う。う。奸。計。よ。ま。ち。う。う。ん。も。う。り。ま。じ。鬼。は。角。つ。ひ。う。ろ。あ。る。
 此。場。を。進。ん。ま。あ。る。と。う。う。と。う。言。ま。を。お。げ。田。舎。を。ま。の。の。う。う。た。る。ま。は。
 杜。能。花。を。空。言。う。と。ま。せ。よ。切。切。に。ま。さ。く。の。う。う。の。う。う。で。外。に。あ。る。ま。さ。う。昔。
 を。あ。り。ひ。出。羽。や。此。上。の。川。の。稀。み。の。う。ま。と。う。に。わ。の。ね。ぞ。も。後。に。の。り。じ。
 その。頭。も。う。う。は。け。く。も。り。て。や。せ。い。の。は。公。を。告。あ。せ。の。う。う。な。ま。ま。さ。う。角。
 汝。ま。と。う。ひ。う。う。つ。れ。ば。彼。方。の。志。を。破。か。ぐ。て。玲。為。伎。や。き。処。な。り。あ。く。
 ま。さ。う。う。う。今。う。の。何。人。の。憚。る。ま。ま。と。宣。ん。が。昔。の。ひ。う。道。袖。を。払。ひ。う。
 於。女。と。や。う。う。な。れ。ば。ま。ま。又。其。人。は。横。陳。し。て。ま。ま。の。耻。な。う。ま。ま。と。宣。ん。

志を換うる君傾城となり。あえ遂にのちひをせよと。此方共
 に悪名の甚にりれん。嗚呼は世に憂のかりひのり。世にほのぼどろろいさ
 りのあはじを。とあとの言も果さじ。まふ世にひれぬ未通女の。よろこぼ
 ちちする言。この文にさうらうも。外に人や夢つらんと。傍に乳紙くそり。
 酒気發しく。顔は夕映のりも。辰ちりし立居に衣の香も。梅の木の下
 とまづ。こころちりれ。強き心を。まづぬ。さうらうに。こころちり。土をのちを
 又。このやりの。ん近くわら。我もどかり。聖と。しとや。え。ま。じ。五郎。花と
 縁。鈴。あんと。らん。不。茂。ゆも。宜。なり。と言。出る。に。杜。筋。花。か。ら。て。敬。ま。
 一。つ。この。ち。ち。と。宣。ら。と。ら。一。益。と。つ。つ。ひ。と。便。所。用。亦。変。化。し。
 折。折。五。郎。彦。こ。ら。う。ら。う。言。を。さ。う。ら。う。我。に。ま。さ。が。素。兵。五。太。九。六。と。間。
 者。と。う。夫。彼。と。に。す。か。こ。ら。う。これ。も。や。申。も。節。美。は。ち。捨。く。按。女。と。儀。

此方なれば終方を誓うる。一へ。梅。と。も。只。恨。の。ち。さ。う。代。む。と。び。一。夜。の。情。け。の。り。
 明日へ。青。道。公。と。な。る。と。く。も。恨。と。ら。あ。ら。い。の。の。を。我。は。け。と。も。け。身。と。言。な。そ。
 手。を。さ。う。へ。不。と。く。根。が。い。ま。に。あ。ら。い。と。も。ら。に。杜。筋。花。今。の。怒。に。さ。え。う。ね。
 此。方。も。昔。の。浅。間。家。の。近。臣。な。れ。ば。聖。賢。の。書。の。一。條。の。入。の。あ。ら。め。初。と。成。り。
 道。理。は。つ。く。と。さ。ら。う。る。に。露。夢。と。さ。の。め。の。最。愚。か。る。行。跡。も。そ。傳。る。
 夫。女。の。大。路。は。歩。行。ど。し。額。に。霜。を。ら。う。袖。し。帳。と。く。羞。ら。う。か。ら。う。ひ。ん。と。
 両。夫。と。ま。さ。ら。う。り。く。二。張。の。弓。に。比。し。踐。二。度。の。襪。の。ん。せん。ま。ら。い。あ。れ。と。
 真。愛。川。竹。の。な。が。れ。は。枕。が。ひ。常。の。女。と。ひ。う。ら。う。む。お。り。あ。ら。ぬ。隔。か。す。白。地。
 の。か。り。方。は。千。人。の。指。に。ま。さ。う。彼。を。何。某。と。い。は。按。女。の。り。と。言。ま。ら。う。
 を。却。く。赤。び。ん。も。瓢。客。の。舌。に。あ。そ。ん。ど。仇。の。あ。ら。う。も。姫。姫。め。と。く。あ。
 と。の。そ。乃。赤。世。に。傳。へ。う。紙。墨。言。と。も。活。な。が。り。火。坑。と。方。を。没。し。う。と。も。ひ。つ。

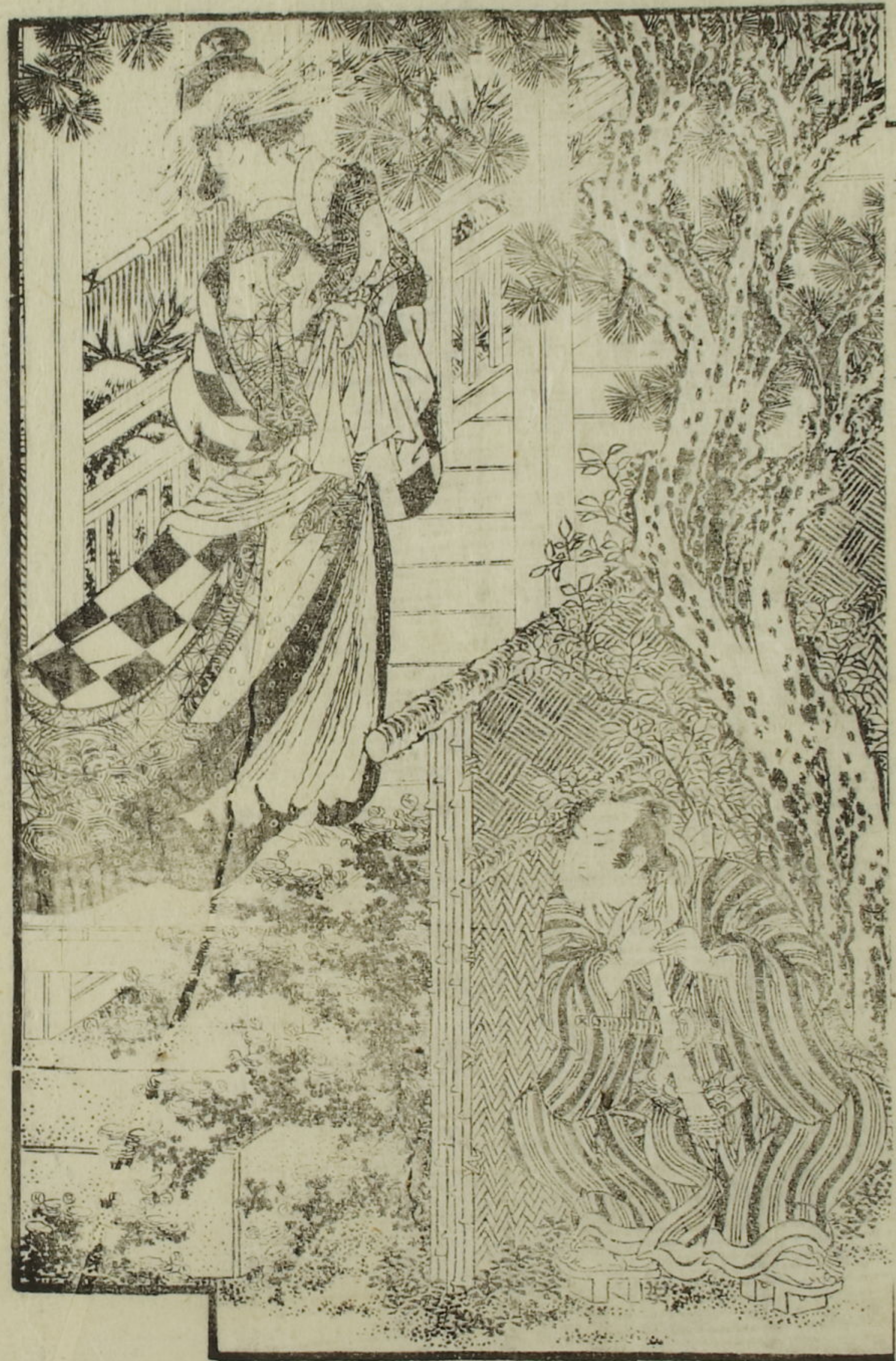
べい爰をくサリとさめへ。くちで罪の深きなり。松のらるるこつらく方も。女々
 かたし女もく。自他うささる心より。異夫をいさねるふのいじ。貞をよめ
 く負のり。様をまててさそわのり。知しせのふ人へ。祥に言はぬふねども。
 不用の頃より。いひかたし。其人の長の病若に冷方やく。拙女も
 ずつとさども。夫に自滅をさうせん。針さる仇敵。小夜衣をかきぬんや。
 息まもあつく。言さる。土をの目注はる。口賢といひつる。斯なる上
 ら。千金にその才を贖ひ。おひをさうさう。あくべと中。冷笑ハ杜能花
 ハ眉よりひまのけく。色と情を販く才と怒を笑ひにまごじし。おわらう
 一恠ひもに。やくに憂非。非道人の面獸の公。とごめ。あつとも。撒へしと。
 坐をくんと。すうらるに。土ちの怒心。願うか。かり。裾紙扇に突さむ。杜
 能花ハる。成さる。枝さる。枝さる。畳帝面に。ちつけ。力をさうめく。桂乃

裾をくくハ。煩悩の犬つく。なひ。撲地と。情又起さ。ちく。と。人んと。さる。折とを
 のれ。朝に。かけ。さる。燈籠を。的に。何人。打さる。磔燈火。まごさく。駭く。杜
 能花ハ。さる。と。び。庭に。あり。さる。木。糸。の。才を。ひ。さ。め。さる。試。土。ち。の。文。に。さ。る。も
 つ。さ。急。く。も。後。堂に。逃。行。し。と。ち。ひ。行。中。一。人。既。既。一。室。の。ち。へ。の。り。に。さ。る。
 時。は。余。折。戸。を。剥。喙。と。喧。し。者。あり。杜。能。花。お。さ。る。く。さ。歌。む。是。則。五。を。疾
 ず。り。且。ち。さ。る。ま。且。さ。る。さ。ひ。の。程。より。さ。爰。に。忍。び。く。居。り。ひ。の。ま。星。曇
 土。ち。の。ま。め。ら。り。の。ひ。と。言。を。さ。る。め。く。我。郷。より。の。根。子。の。世。の。外。面。は。サ。居
 され。バ。再。び。培。に。か。ふ。か。む。又。砒。を。り。て。燈。籠。の。火。を。打。消。し。の。才。を。密。に。招。き
 へ。この。ひ。さ。の。辺。に。人。や。あり。と。右。左。を。顧。縁。側。に。尻。を。も。ち。かけ。尺。八。寸。に。突。り。さ
 せ。く。言。の。頃。日。良。治。君。本。國。の。内。緒。の。ま。さ。の。怪。異。あり。是。悉。時。の
 方を。利。害。な。さ。る。然。意。の。な。ま。と。ま。ろ。に。く。遂。に。聖。妻。の。方。も。ら。ひ



執権譚卷之三

十三山崎堂藏



幸者言卷之六三

十四山崎堂藏

死をまゝひと風は夢也。杜能花は然り。然しは知まじりやと問へば。声は密に
其まへに言ふ。玉衣に言ふ。ひと逢州主のおどろにやぬ夫。逢
州主も。只官にちりひ屈し。只わねぞはく。まゝのよと應ま。かゝる
吐息しく。爰は一の難義あり。其方もかろく。あつらん。逢州主の場代。これ
うき百両のりの負めあり。田字草の長我を。まゝと巖原未溫柔。上
まちの良治。なるといひ。公づまのり。これぞく。以錯も。鑑や。さるあり
か。斯と。こゝと。んた。近臣の子お怪あり。まゝり。ふく。い。変果。一。憂。中。に。又。憂
と。は。や。ち。の。か。ち。さ。は。似。つ。ま。ど。も。恩。惠。尊。君。の。に。為。我。ま。ま。く。力。を
そ。小。金。才。覚。志。ま。ま。と。ち。ま。り。ま。の。ひ。か。れ。ば。杜。能。花。の。ま。ん。狗。ふ。こ。り。
妾。ま。ま。く。小。金。は。洞。へ。負。め。を。長。に。貸。ん。と。お。り。ま。ま。と。言。け。ち。て。潜
然。と。泣。き。花。も。臉。を。赤。く。ま。ま。と。呼。呼。負。め。の。ま。ま。と。苦。に。ま。ま。と。勞。て。ま。ま。る

か。今。ぞ。人。の。の。神。と。な。ま。ま。と。袖。を。誓。と。ひ。人。ま。ま。と。多。か。り
と。ひ。ま。ま。と。公。強。否。人。に。く。ら。ば。悪。う。ん。と。立。半。が。又。立。度。也。ま。ま。と。杜。能
花。い。ま。ま。と。ひ。ま。ま。と。逢。州。主。に。負。め。の。ま。ま。と。ま。ま。と。近。き。に。忍。び。て
来。り。ま。ま。と。立。列。ま。ま。と。庭。の。小。毎。の。茂。り。曲。者。二。人。あ。り。ま。ま
出。の。紙。も。言。ひ。ま。ま。と。切。は。か。ら。花。の。ま。ま。と。ま。ま。と。を。持
せ。右。と。左。に。投。退。し。ま。ま。と。杜。能。花。が。声。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま
ま。ま。と。白。又。を。引。提。か。ら。花。が。背。後。ま。ま。と。往。ぞ。と。知。る。ま。ま。と。尺。八
ま。ま。と。吹。ま。ま。と。顔。も。ま。ま。と。飯。ま。ま。と

五郎花能花と名ひ遠く逢州を殺す

土右衛門再び隠飛の術を不どよめ事

世の中の憂を憂はざるものあり。ふりかへしる妻の面影をみるるも
 おまじ。杜筋花の一人楼におりひびく。煙中のうらみ。雲のうらみ。物
 のおとひもなきやうに。人気なれば吐息をつき。情思うけし。主君の
 へら。天に育き良人のもの。はたおの行等憂目にあり。今にや。よとあり
 こと。やが厭えのあねども。探をすのひく。公の下知うち解く。小室
 夜もろさ。川牝の流よ。あづむへ谷のそと。行人ふ。小金の才足派。ひ
 とも方もあ。吹多き。宿の妻な。花もさ。さる。憂をやる。嗚呼。兎
 角に。おまじ。世の中。ひびく。只僕こと。泣に。折
 へら。一室。その金。おまじ。と立出。土。杜筋花の
 へら。と立上る。裾のうら。百両のすりもあ。小判をい。紋布を
 へら。と投出。杜筋花も金の才。おまじ。居。おまじ。ひ。

小金の能に。おまじ。おまじ。世の中。ひびく。只僕こと。泣に。折
 へら。一室。その金。おまじ。と立出。土。杜筋花の
 へら。と立上る。裾のうら。百両のすりもあ。小判をい。紋布を
 へら。と投出。杜筋花も金の才。おまじ。居。おまじ。ひ。

借うる。券書とやうのよのやめらぶ。夫やまぶ最公やと。いんご土
 ちの頭とふり。否。券書よめらじ。五ヶ孫(離状)を。我まうろは従ぐら。
 千の金も惜に。うらま。ゆて杜筋花におをさつら。坐を立奥へ
 ちんとも。土ちの敢く。さむる気色もや。答もや。さう去ら。
 け金紙はんと。いん。むらさ。いん。け金や。さう。いん。け
 夫婦が浅間家へ。時恩を報て。其期を誤て。さればとて判るに
 金を。いん。と。我の。いん。け金や。さう。いん。け
 かさめら。杜筋花の千二百に念。少時答もや。さう。いん。け
 公よ。いん。ま。彼に。ま。いん。け金や。さう。いん。け
 彼金を。いん。け金や。さう。いん。け
 土ちの。いん。け金や。さう。いん。け

か。ま。いん。け金や。さう。いん。け
 花が。いん。け金や。さう。いん。け
 人の。いん。け金や。さう。いん。け
 か。ま。いん。け金や。さう。いん。け
 を。いん。け金や。さう。いん。け
 くれ。いん。け金や。さう。いん。け
 べ。いん。け金や。さう。いん。け
 め。いん。け金や。さう。いん。け
 くれ。いん。け金や。さう。いん。け
 の。いん。け金や。さう。いん。け
 め。いん。け金や。さう。いん。け
 の。いん。け金や。さう。いん。け

其座なる女の公一條は夫をえさるる令毛や鹿のまき草をりあげく山子の
 尾のながくとくろあつゝる春命に流せしが執刀くめるをさしやと引
 破く又出ぐら潰れゆく戒刀を換く切とされぬ草の殺さしや世に短を
 芦のかりぶさと涙くしく出せむ土ちつら余光とらもろこも出
 ちく交むらち金瓜杜節花より入いそぐりく杖子をさり暗号を送く
 うち歌は度の間より太九六ま兵立めらま出士ちつらあに踏まもくも
 今下りたるがし庭の木陰にわくろひわく。さう花が飯ア飯ま。只一も
 切つけい。這奴も強いの。何の苦もなく投退らき。そのひのろに幸目入く。
 くれくが令既ら危ううつろ。いむひりん。後をも入るごとく飯ア一む。
 怖く背後よりさく。うむひりげども。這奴が勇気烈きゆえにやとて打
 むらひりまらる。首領彼をもちえん。手腹をわらじのりひりけむ。

土ちのすくとも笑ひめ言甲申する奴ふら彼と。この怪戦も。途くす
 控滴を白地よりのぬる。虫かうとや賞べ。死すとや笑ふごとくわたり
 顔も彼杜節花がまを代は出。是こそ杜節花より。さう花にわける離れ
 我杜節花を言賺くあせつら。二人の急がさう花が家より。這奴が怒を
 ひき半。門はあけしと。二人の急がさう花が家より。這奴が怒を
 離れたと。さん八最むを。さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう
 さう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう花の急がさう

香りのいづと、田字草が長にやうべと。いそびしうれば、杜能花の香もあつて、
 かねく歩むを帯のたひらきとて、妾常は積裏のすきひあり、時をわたりて、
 ひくと、髪尾をよそひて、言え入まひと苦い。かゝる程迫る長が家より、飯を
 かきうん少時、すちまらまこといひつても、又打伏し息をさしおげにえたる。
 土ちたひ公はぬ面もち、く、かりけりや、く、賺くまへ、杜能花憂ふは、
 報わがう。往ぶうらぬとあへ、君ごらり、あさ、又、妾へ病愈くのち、公用に
 飯をく、と、鬱結して、く、又、人変をきく、く、土ちたひ、又、怒り、我ひとり
 長が家にあく、く、く、言ふまをく、く、離れを、く、く、何ぞ、小合、成、手、入、や。
 是非、我を、傍り、く、く、悩む、杜能花、が、み、け、く、く、引、立、人、と、ま、ら、す、く、く、
 ち、く、少、時、侍、ま、く、と、声、け、く、命、門、く、く、ひ、く、く、わ、く、二、人、が、中、に、く、く、く、く、く、持、
 くら、忠、府、を、め、く、く、土、ち、た、ひ、を、押、止、る、者、め、く、く、唯、と、く、く、く、く、く、是、則、逢、州、之、脂、粉、

の妍ハ雲を髪に起し、瑤羅の敷ハ茶の秋を拂風情あり、唯是乙織女の下界に
 らぶらうとめやまらる。く、く、逢州、等、の、粉、と、く、く、声、を、出、く、く、く、く、星、終、
 主とやうん、あ、の、妾、を、く、く、ま、じ、め、ま、す、く、杜、能、花、主、と、く、く、姉、妹、の、と、く、く、逢、州、と、く、く、杜、女、
 み、ぞ、け、く、く、妾、も、頃、日、病、く、く、若、く、く、枕、を、も、め、げ、く、く、く、く、道、を、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 け、茶、す、く、
 く、
 く、
 今、く、
 本、ま、さ、く、
 を、与、く、く、く、く、病、く、く、く、く、外、く、く、く、く、其、人、を、傍、り、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 爰、を、く、



九
五
日
單
本
三

一
九
三
三
年
三
月
三
日



新
春
言
卷
三

山
青
堂
精

かりげ。兼く少かうびる花魁逢州主の。さうぐん。城のけのひのみを。やふね
 りのわねども。田字草が長し。誘わらん。を安約する。金まぐ。こせせ。に俄乃
 病へ。かえり。杜筋花が。とん。吾に。うち。せめんと。又立。うんと。が。さる。さる。
 逢州の。や。紙か。隔。さ。お。び。さ。が。皮。風。さ。ね。さ。う。う。ひ。わり。又。さ。へ。さ。安。ら。安。ら。安。ら。
 ぞり。あげ。ぞ。外。さ。う。ま。の。身。列。衣。白。綾。の。は。小。袖。と。杜。筋。花。ま。の。さ。る。や。さ。う。り。
 目。結。の。衣。と。ね。さ。う。く。藻。蒲。草。と。霞。水。と。さ。さ。る。ぬ。者。も。う。ら。杜。筋。花
 ま。の。の。提。燈。を。り。さ。せ。た。か。夜。目。に。り。それ。と。人。も。見。ん。と。桂。と。一。對。の。
 胡。蝶。成。縫。ひ。も。時。の。幸。ひ。妾。を。仮。の。杜。筋。花。ま。と。お。ひ。ひ。ひ。長。が。許。に
 い。ろ。り。の。程。を。主。の。病。も。お。で。後。う。う。さ。さ。り。め。ふ。と。流。石。に。里。な。ほ。逢。
 州。も。ま。杜。筋。花。か。お。を。さ。や。も。推。土。ち。の。を。は。外。の。の。を。と。く。言。羊。を
 しく。と。く。賺。お。ら。ん。く。ま。が。土。ち。の。と。逢。州。が。兵。舌。に。ひ。さ。ら。さ。き。さ。ぶ。く。よ

兼引。杜筋花の。最。び。げ。の。も。つ。く。言。り。が。過。切。離。状。を。と。課
 ち。さ。さ。さ。に。り。く。は。調。さ。つ。る。み。ま。さ。疾。う。あ。さ。く。逢。州。が。耳。に。口。を。書
 密。よ。か。る。病。の。に。か。う。の。ら。さ。と。と。は。さ。さ。逢。州。の。さ。ね。面。り。ち。く
 ぞり。の。い。是。ぞ。ま。の。う。ろ。列。を。と。ん。さ。の。夜。脱。を。と。杜。筋。花。が。狗。乃
 火。杖。草。我。方。の。う。人。よ。さ。さ。く。如。蓮。の。丈。幅。の。排。麻。子。は。雪。の。仇。の。泣
 く。や。く。ぞ。も。さ。さ。さ。さ。下。さ。ら。三。悪。道。の。辰。材。子。日。と。る。病。の。約。下。は
 も。一。足。宛。は。穴。を。い。さ。い。い。さ。い。と。鬼。と。ま。さ。火。車。を。地。獄。の。使。と。く。無
 常。風。よ。次。人。に。遊。久。を。目。日。乃。葉。と。今。の。種。乃。根。や。食。人。屋。影。と。り。毒。我
 の。り。こ。こ。に。猛。虎。の。か。く。と。お。ひ。も。お。け。と。逢。州。と。さ。さ。く。に。言。愿。杜。筋。花
 を。を。甲。法。は。抄。し。主。を。あ。と。と。ち。連。さ。ら。出。り。是。は。さ。さ。か。ら。素。兵。五。太。九。六
 の。西。人。の。汗。汗。の。五。じ。巻。が。は。家。に。擇。由。さ。嚮。の。ひ。か。さ。ら。や。驚。さ。く。ん。門。首。よ

九
 二
 山書堂

傍徨と内よりいひて。行中ん杜能花主を送すもどく。わろ玉章城
 行中ん定むるに逃さるる。此時より花の家へ飯を只一人あづか
 りて行末のいふまじ。おひらぐじ手次又さるる。行の公もつる。杜能花
 小文を手に取あげ。燈火のりてに標えし。續をらる。且わや。思ひ
 ちまこ正しく休まらる。退却し余らる。其時の常にかつてさる。うつ
 かく。彼が袖中女のりてより男許へ離伏おる。例もさる。あま不審や若く
 へ玉ちの我怒をひら出んとく。然るる。いふわらん。熟入る。杜能花
 名中。いふまじ。おひらぐ。時黙然と。左往右往の。おひらぐ。し
 稍あや。忿然と。怒をふ。最前星敷土ちの甲屋に。杜能花を
 ちん。言ふを。ては。彼を。彼の。定か。人。我。赤
 名。と。其。を。彼。に。さ。る。る。不。夫。も。我。潔。白。や。り。を。さ。る。る。つる

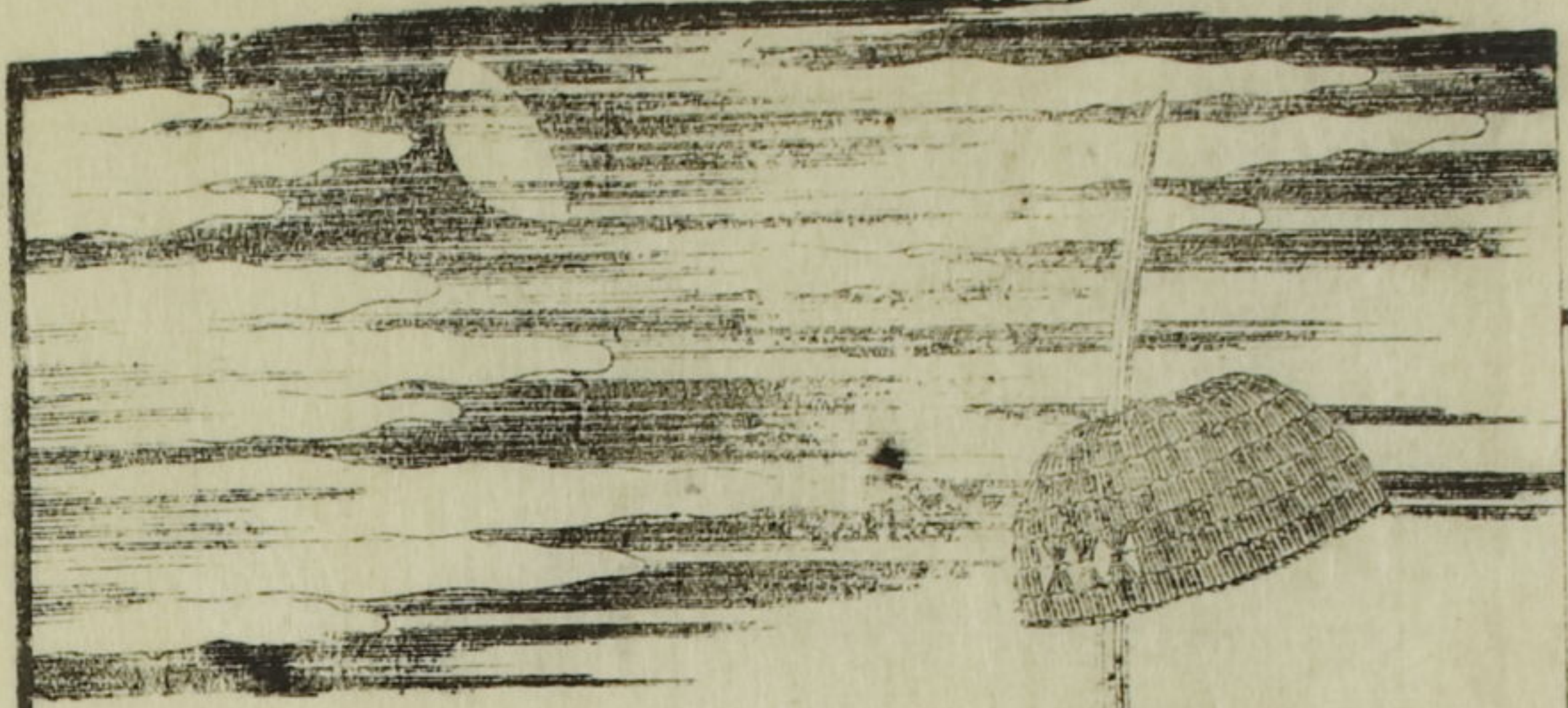
推量との。今もその。おひらぐ。杜能花土ちの。靡く。止。
 嚮。我。垣。の。外。面。よ。ま。の。を。知。り。と。難。面。く。り。か。を。さ。る。る。せ。を。
 中。ち。せ。這。奴。が。ひ。ち。に。ひ。つ。我。を。言。え。ん。と。さ。る。る。運。つ。く。と。脱。き。
 の。な。か。そ。ろ。べ。り。と。数。回。嘆。息。な。せ。が。な。げ。怒。は。堪。え。や。め。ん。と。ん。と
 さ。く。押。入。を。め。る。命。門。の。圓。く。入。魚。心。く。さ。り。出。を。服。さ。朝。に。ふ。せ。る。株
 敷。は。世。の。夢。と。さ。る。系。に。中。ち。の。雙。葉。の。双。索。を。腰。に。ぶ。ら。の。走。出。る。
 かく。怜。れ。人。に。勝。る。る。ち。を。控。え。し。と。火。性。短。気。を。い。ん。せん。玉。乃。腹。と。や
 比。せ。ん。錦。の。や。ぶ。き。と。や。い。ん。意。却。遂。逢。州。の。土。ち。の。を。後。引。甲。屋。に。も
 出。し。以。成。も。其。に。似。も。や。も。空。く。曇。ち。に。く。そ。吹。風。衣。さ。び。く。花。の
 雪。吹。ら。せ。り。や。あ。ぢ。り。と。も。さ。あ。め。る。子。刈。袴。も。告。り。る。魚。鮮。を。せ
 魚。鮮。も。せ。按。摩。症。癖。と。い。ひ。の。り。の。軒。守。犬。の。吠。ると。さ。は。打。ま。り。て。

のこころしく。甲夜よひのしづらひもひき習ゆるり。花街寂寥ひんがしとて。夜色又幽やみく
 くら。香火車かゝりくるまの逢州あはしがこころのこころ後のちのこころ。夜もまや更とほ閑ひらく。こころ大おほま
 まいそごせのまど催もよほせど。逢州あはしの杜館たけ花はながかりの守まもりをみる。懐なつかしうね当難あたがたを
 こころけんそと。土七どしち角かくつを誘さそひし。やまに。田字でんじ草くさが家いえに飯いひもく。後免のちみづマ
 せん角かくやいらんと。かまもみら。んご。あまこころの入雲いりぐものこころ。星やのり。に接こころの
 白しろくのこころへるも。竹たけとて。風姿かぜのやと。秋あきめ。まげ。の物ものがさ。寛あきらくぶり。餘あまり。
 襟えりのりぬ。回まわりをせんそと。腰行こしあがり小止こゝろとどと。土七どしち角かくつ。を魚うま長ながが。許ゆるり。
 まい。うやふは疾はや杜と館たけ花はなを。しひびくり。へへ。野のと。近ちかく路氏ぢ性じやうややむと
 ころ病びやうよまめりすがと。流なが石いし逢州あはしがちちわがり。こころとちち行跡ちやうまは恥やまん
 其外そとのこころの言ことをいひ。既すでに田字でんじ草くさが家も近づき。こころとちち。こころとちち市ち所じよのかきせらん
 てね。なこらん面おもてをつつす。もやも逢州あはしよりのこころを入いらます。け方かた燈あかりのかれれと

滑ひり。今やくと待まちんでし。藤ふじ蒲あし黄わうの水かちぬぬる杜館たけ花はなの花で來る
 其客きやくもまぎぎつもひさと土七どしち角かくつも。不法ふぽうの大賊たいてく水すい性じやうの姪婦めい。這へ奴やつ両りやう段だんとし
 怒いかれをやまめんととりら。氣き逆さかのち。眼まなこくも。衣えの色のひのとをかをし。逢
 州あはしの面はいんとさふりと。姓せい先せんへはとのらま。出で腰こし刀やいば閃ひらく。提燈ていとう摸も地ちと切落きり
 せ。わなやと未まが叫ぶ声。大車たいくるまの白又びやくをあるよも。足かんと起もあがらず。
 逢州あはしのかねくらう。仇あきらを討んど願ねがひく。公男こうなんと志き女やまき。若や若仇あきら
 の余類よるい反はん討とうにせんそく來きてし。さら。はくくも便べん宜いのと。こらもあらうづき
 約やく下げ法ぽうぬくとく。善ぜん惡あくもあらうぬ暗を幸ひ三間まをかり逃ちく。衣えはしめり
 柱はしらの董を知方ちかたと追ちく。九こ撥はく板ばん金剛こんがうと背後せごらう裾すそはたらと踏ふ止とど
 き。桂けい同どうと脱の空。声こゑはしめりとぬ。虚うつ蟬せみの又逃にげ出で。又また逃にげちき。切きまし。白あか又
 は令てし。響ひびきとらんつく空そらを突つととをあらうけ。花はな退たい逢州あはし給たまらり。あらる。

五郎藏
杜能花
とらへて
隆州と
あつ
と





土右衛門
隠形の術をもちき
ふいへび
危急を逃る

紅の肌をさかひむ踏らる。撲地とけいはいまもとて。隅四五寸切らげらる。
呀つと叫ぶとあまうらみけに拾髪らつてひきまかり。水の又狗は突つた已あへよ
こと時恩交一の主人の勸えをふひり。今とてわらうと雙言敵する。土右衛門
をまうせ。榮利をさるる老野狐我は耻辱をのこし。此狗はあぶえのん怨
の又うけとあまうらみ。声しるる間もあふんこと。力を究めくこととをせ。雪の層を
紅の鮮血に染る魂さるる。玉の并地よあちう。今仙境もや飯らうん花の姿
をんをてついつの雁もやの啼。声らうるもに息しえらる。あまあちうらや。
さるはくも土右衛門のいつのまにまつらんと。足あがうと折す風のき雲やぶき。其日
あまうの月山の塔にさこのかり。皎くさうく白日のまじ。あま信度打んたを。
いつの程もや逃去らん例に人氣わく。唯土右衛門の自諾さうく傍徨わらう。
這奴不敵の曲者退らんせらと。白又らちうり切めまぶ。土右衛門の莞余とらうら笑

かの色来つゝ虎の鬣をさくんとさくや。嗚呼危くと廣言とまつゝ技合せ
 丁と戦ひしが奇なる哉妙なる引朝日にひく霜のそく。土をうが形忽然
 とさくせ。只白及の虚空に閃る撃ど拵へど手おえやく。霞を切烟を
 突又陽本を揺るに似くいつんとも冷とべやく。不とく危くんえけるが
 五郎花不斗公づき。眼をさくく熟見るに姿まそええね土ちの壁人月
 がけのありくと。街上へうつりくきふ。扱まを彼が幻術も大陰の後みん勝と
 めんふととち不ちま。是天の助なりと。影を的の空をさる。エちつとち花
 が勇力気くひまをこに。敵がくやのヤクン。又も八重雲吹とまづく。月をかくせる
 雨曇よまごれく。逐は逃失く。ゆる処へ花街の雑戸半にぐ。持を引るけ
 づ。提灯とりつと走集アじが。ち花が白及を引提る。代んく。近くも進む。
 のを先逃らるととく。い遠く開く。夫彼と罵居る。ち花も今ん力や。

逢州が首うちか。袖ひらちとらとく。腰しむとび響の離状をう。やみんれむ。
 威の白及うらうらと。遠めちとこのけ行燈を。な来て公徐よとらねめ。逢州
 がとんふとせ。杜筋花が後の玉を成彼離状とあう。之拾ひのけく。懐と
 おさふ。伊もろく。雑戸は疵をあらせんも罪除くと透間を密取ひ。何地か
 逃去り。さく花街の雑戸お。逢州が亡骸の傍に。とらり。深浦。其の
 後紋衣の色のひ切落。提灯のある。疑もを。田草草が長の。
 杜筋花や。も言あらふ。杜筋花の甲を。あくと命。り
 夢の字橋。さく。公ちと。走来て。亡骸を。さく。あけり。の。は。涙。お。ど。
 忙然と。傍徨。が。逢州が。白徒の。小袖を。見。は。さく。御。り。落。に
 若く。髪。さ。乱。れ。雑戸の。一。め。り。り。あ。や。と。血。び。や。杜筋花。之
 の。幽。霊。非。業。の。死。は。是。非。る。や。あ。と。懇。懇。と。吊。ひ。ま。い。せん。さ。や。ま。さ。ん。の。人

おのひま^{おのひま}なるなり。あつとけ^{あつとけ}てさうおのひまに侍入^{侍入}のらまことひまき^{ひまき}く刀を
 ひま^{ひま}さんとあつたれば於^{あつたれば}お推^{お推}すま^{すま}あつく日逢^{日逢}刈^刈主^主の最期^{最期}の一^一條^條を
 妻^妻も公^公に徹^徹せ^せとあつた。死^死に一旦^{一旦}に^にまこと^{まこと}もあつた。まが^{まが}お時^{お時}待^待の^の人^人。
 まが^{まが}お時^{お時}待^待の^の人^人。

浅田後帳逢州執志譚三之卷 終

